

3 震災直後の実態調査結果

東日本大震災後の実態調査の概要

実態調査のまとめ方について

アンケート用紙

1 東日本大震災後の実態調査の概要

- 1 名称：東日本大震災後の実態調査（その1）、東日本大震災後の実態調査（その2）
※その1は初め実態調査としていたが、その2の実施に伴い実態調査その1と呼ぶこととした。
- 2 目的：東日本大震災が、宮城県内の学校保健活動に与えた影響、また養護教諭が捉えた児童生徒の心身への影響などの実態を明らかにし、報告する。
- 3 対象：宮城県内の養護教諭
- 4 配布数：実態調査（その1）780校（1校1枚）、実態調査（その2）826名（全会員）
- 5 回収数：実態調査（その1）711校、実態調査（その2）741名
- 6 調査期間：実態調査（その1）平成23年8月10日～平成23年12月22日
実態調査（その2）平成23年12月5日～平成24年2月16日
- 7 回収方法：宮城県内29地区の代表である地区委員をとおして配布し回収
- 8 回答方法：所属校を記名し、調査項目に記号選択と記述式で回答
- 9 調査項目：
 - 〔実態調査その1〕
 - (1) 学校の被災状況
 - (2) 避難所開設状況
 - (3) 震災直後の保健室状況
 - (4) 発育測定（身体計測に視力検査、聴力検査を含む）実施状況
 - (5) 学校医による検診（内科、耳鼻科、眼科、歯科）の実施状況
 - (6) 事後措置の実施状況
 - (7) その他
 - ①東日本大震災で健康診断以外に苦勞したこと
 - ②東日本大震災を経て今後役に立てたいことや気づいた点
 - 〔実態調査その2〕
 - (1) 地震発生時の児童生徒の在校状況と養護教諭としての対応
 - (2) 避難所の開設場所、期間
 - (3) 避難所開設時の保健室の機能
 - (4) 支援養護教諭の状況
 - (5) 一校内に複数校が所在している場合の保健室経営
 - ①保健室の形態 ②養護教諭の巡回状況 ③経営上の問題点
 - (6) 児童生徒の様子（体と心）で気になること
 - ①Ⅰ期：3月11日～始業式前 ②Ⅱ期：始業式～夏休み前 ③Ⅲ期：夏休み期間～調査記入日
 - (7) 震災をとおして養護教諭として感じたことや気づいたこと

2 実態調査のまとめ方について

- 1 実態調査（その1）と実態調査（その2）では、配布数・調査期間・集計方法・考察方法は異なるものである。
（その1）は平成21・22年度事務局役員が、（その2）は平成23・24年度事務局役員が主に担当した。
- 2 本報告書の中では「〇〇教育事務所」に、その管内にある公立以外の全小中学校を含めている。

- 3 宮城県内には 35 市町村が存在するが、報告書をまとめるにあたっては市町村単位の統計ではなく、宮城県教育委員会の教育事務所区切り図に合わせ、仙台市教育委員会管内と 7 つの各教育事務所管内、高等学校、特別支援学校の 10 のグループで集計し状況をまとめた。同じグループの統計であるが、表記が「仙台市教育委員会」、「仙台市教育委員会管内」、「仙台市」のようにスペース等によって違っているところがある。
- 4 各地区の様子を把握するために、その 1 では高校と特別支援学校の回答をその教育事務所管内に入れた統計もある。この場合、仙台市教育委員会管内と 7 つの各教育事務所管内の 8 つにグループ分けしている。32 ページ参照
- 5 記述の回答部分のすべてを具体的に残すために、全員の分をそのまま紹介することも考えたが、データの凝縮を図ることや全体の傾向をつかむため、宮城大学の学生が鹿野裕美先生の御指導のもと卒論として因子分析の方法でまとめられていた論文を参考にして記述の回答をまとめた。この方法によるまとめの考察ではカテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, コードを〔 〕と表記した。

主な 3 つの記述部分の回答者数とコード総数は以下のとおりであった。

 - (1) 「東日本大震災で健康診断以外に苦勞したこと」(その 1 のアンケート) については 480 人の会員が回答した。記入された内容の意味を損ねないように切片し、コードを生成した。コード総数は 968 となった。これらを、グループ化したところ、38 のサブカテゴリーが生成された。さらにこれらは、10 のカテゴリーとしてまとめることができた。

宮城県全体でいえること、各地区での様子は 57 ページから掲載している。

分析表の表記として、各グループのコード状況を把握するためコード数を持たないサブカテゴリーも一覧にしている。分析と考察を担当者が行った。

考察ではカテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, コードを〔 〕と表記した。
 - (2) 「東日本大震災を経て今後役に立たいこと」(その 1 のアンケート) については 433 人の会員が回答した。記入された内容の意味を損ねないように切片し、コードを生成した。コード総数は 780 となった。これらを、グループ化したところ、22 のサブカテゴリーが生成された。さらにこれらは、5 のカテゴリーとしてまとめることができた。

宮城県全体でいえること、各地区での様子は 83 ページから記載している。

分析表の表記として、各グループのコード状況を把握するためコード数を持たないサブカテゴリーも一覧にしている。分析と考察を担当者が行った。

考察ではカテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, コードを〔 〕と表記した。
 - (3) 「震災をとおして養護教諭として感じたことや気づいたこと」(その 2 のアンケート) については 708 人が回答した。自由記述への回答を意味内容を損なわない部分で区切り、その意味内容が類似しているものを集計した。コード総数は 1,827 であった。

宮城県全体でいえること、各地区の様子は 139 ページから掲載している。
- 6 宮城大学の鹿野裕美先生の御指導のもと、学生が分析した表をそのまま掲載している箇所やいくつかの分析表を統合して表を作成したものがある。この部分は、分析者名を入れている。

3 アンケート用紙

平成23年度 東日本大震災後の実態調査

宮城県学校保健会養護教諭部会

この調査は、東日本大震災が宮城県内の各学校に与えた影響についてまとめるために行います。次の点についてご記入ください。（現在校で分かる範囲で御記入ください。1枚1枚といたします。）

学校名 _____ 養護教諭氏名 _____ 地区名 _____

1. あなたの所属校についての調査

- ① 所属校の所在地を御記入ください。 ① _____ 市・町・村 _____
- ② あなたの学校は、東日本大震災で被災しましたか？記号でお答えください。（複数可）
※ 被災とは、昨年度までと同じ通常の教育活動ができない程度と考慮してください。 ② _____
(A : 地震で被災した B : 津波で被災した C : 火災で被災した D : ほとんど被災していない)
- ③ あなたの学校は、避難所となりましたか？記号でお答えください。 ③ _____
(A : 避難所となった B : 避難所とならなかった)
- ④ 震災直後の保健室の状況を御記入ください。 _____

2. 定期健康診断についての調査

- 《 発育測定（身長・体重・座高・視力検査・聴力検査）についてお答えください。 》
- ⑤ 事前に計画していたとおりに実施できましたか？ ⑤ _____
(A : はい B : いいえ)
※ ⑤で、いえと答えた先生は⑥・⑦にお答えください。
⑤で、はいと答えた先生は、⑧へ
- ⑥ 発育測定で変更となった内容は何でしたか？それぞれ変更となった状況を御記入ください。（複数可）
(A : 日程 B : 実施状況 C : その他) ⑥ _____

日程（日時）の変更状況 <input type="radio"/> をつけてください 1 1週間以内遅れ 2 2週間以内遅れ 3 1ヶ月以内遅れ 4 1ヶ月以上遅れ (日間くらい)	実施状況（場所・方法・手順）の変更 <input type="radio"/> 状況を御記入ください。	その他（発育測定の結果報告・統計）の変更状況 <input type="radio"/> 状況を御記入ください。
--	--	---

⑦ 発育測定実施上で、苦勞した点があれば御記入ください。 _____

《 学校医による内科検診・歯科検診・耳鼻科検診・眼科検診についてお答えください。 》

- ⑧ 事前に計画していたとおりに実施できましたか？ ⑧ _____
(A : はい B : いいえ)
- ※ ⑧でいえと答えた先生は⑨・⑩にお答えください。
⑧ではいと答えた人は、⑪へ
- ⑨ 学校医による検診で変更があった検診は何でしたか？それぞれに変更となった理由と変更状況を御記入ください。（複数可） (A : 内科・B : 歯科・C : 耳鼻科・D : 眼科) ⑨ _____

内科検診変更状況 <input type="radio"/> 状況を御記入ください。	歯科検診変更状況 <input type="radio"/> 状況を御記入ください。	耳鼻科検診変更状況 <input type="radio"/> 状況を御記入ください。	眼科検診変更状況 <input type="radio"/> 状況を御記入ください。
---	---	--	---

⑩ 学校医による検診で、御苦勞した点がありましたらば御記入ください。 _____

《 事後措置について 》

- ⑪ 健康診断の事後措置（健康診断結果の通知、まとめ・健康診断票の記入・統計）は計画していたとおりに実施できましたか？記号で答えてください。
(A : はい B : いいえ) ⑪ _____
- ⑫ 健康診断の事後措置で困っていることがあれば御記入ください。 _____

3. その他

- ⑬ 東日本大震災で、健康診断以外であなたが御苦勞されたことを御記入ください。 _____
- ⑭ 東日本大震災を経て、今後に役立てたい事やお気づきの点を御記入ください。 _____

御協力ありがとうございます。

平成23年度 東日本大震災後の実態調査 (その2)

宮城県学校保健会養護教諭部会

各項目について、お答えください。問1から問5までは主に被災時の所属校について、問6から問8までは主に現在校についてお答えください。

現在校名 養護教諭氏名 地区名

所在地 市・区・町・村

問1 被災時の所属校はどちらでしたか 問2

地区名 学校 市・区・町・村

問2 地震発生時、児童生徒は学校にいましたか 記号でお答えください 問2

(A はい B いいえ → 問3へ)

養護教諭として地震発生直後どのように対応しましたか。(例 健康観察、応急処置)

問3 避難所になりましたか 記号でお答えください。 問3

(A はい B いいえ → 問4へ)

① 避難所

1 体育館のみ ② 時期 月 日 から 月 日

2 体育館と教室

3 教室のみ

4 その他 ()

問4 避難所開設時の保健室の機能についてお答えください。(複数可) 問4

- 1 養護教諭以外の医療関係者による医療が行われた
- 2 養護教諭と医療関係者の共同の救護所となった
- 3 養護教諭が中心となった救護所となった
- 4 避難者が自由に使用していた
- 5 保健室は救護室とならず、本部での救護活動となった
- 6 職員等の宿泊場所となった
- 7 その他 ()

問5 支援の養護教諭が来校しましたか 記号でお答えください。 問5

(A はい B いいえ → 問6へ)

①期間 (月 日から 月 日)	②期間 (月 日から 月 日)	③期間 (月 日から 月 日)
・人数 (名)	・人数 (名)	・人数 (名)
・派遣元 (市区町村)	・派遣元 (市区町村)	・派遣元 (市区町村)
・支援内容	・支援内容	・支援内容

問6 所属校で複数校の保健室運営がなされている (されていた) 学校の先生はお答えください。

① 保健室の形態 (あてはまる所に○をつけてください。)

- A 一部屋を複数の養護教諭で一緒に使用している。(していた。)
- B 前室を前室初めとして使用している。(していた。)
- C 各学級別々の部屋を使用している。(していた。)
- D その他 ()

② 所属校の児童生徒が何か行かに分かれている (いた) 場合、養護教諭はどのように巡回していますか。(いしました。)

③ 保健室運営上当初困ったこと (物品、観望等) や要望、感じたこと等をご記入ください。

問7 児童生徒の様子 (体と心) で気になることはありませんか。 問7

(A はい B いいえ → 問8へ)

①3月11日から始業式前まで あてはまる方に○をつけてください (被災時校 現在校) 体面	②始業式から夏休み前まで 体面	③夏休み期間から現在まで 体面
心面	心面	心面

問8 震災を通して養護教諭として感じたことや気づいたことなどがありますか。 問8

(A はい B いいえ)

(ご記入日 年 月 日) ご協力ありがとうございました